

22 GHQによる戦後の看護教育

カリキュラムの成立と経緯

佐藤公美子・坪井 良子

第二次世界大戦後から今日まで、わが国の看護教育カリキュラムは幾度かの改正を重ねてきた。日本の看護教育は、複雑化する医療環境の変化に合わせた教育内容や方法を検討しカリキュラムを構成してきた。二十一世紀の看護教育は疾患看護ではなく、個々の状況あるいは生活機能に合わせた看護を目指しており、現行の看護教育カリキュラムは一九九七年四月一日からの実施である。

本稿では、わが国の看護基礎教育をスタートさせたGHQの看護改革を基点として、看護教育カリキュラムの成立過程をGHQ文書に基づき明らかにする。

戦前日本の看護教育は、伝染病や戦争、災害への救護要請に応えるために、入学資格と修業年齢を引き下げて実施し、その結果、看護教育レベルの低落と看護婦の質

の低下を招いてきた。GHQの占領改革は、看護分野においても斬新な改革を実施した。その改革とは、日本の看護職を医師、歯科医師のように医療に従事する専門職へと自立させるというものであった。占領当時、日本女性の中で大学・短大へ進学する者は、わずか〇・八%に過ぎず、看護教育を高等教育、専門教育へと移行するこ

とは大きな課題であった。看護改革を主導したGHQ/PHW(公衆衛生福祉局)のサムス局長、オルト看護課長は、日本の看護職は自らが看護職の役割を明確にして、看護の専門性を理解する必要があると言及し、看護教育を向上させるには、戦後新たな看護教育カリキュラムの編成が必須課題であるとした。そこで、サムス局長は、一九四六年三月二十五日にNursing Education Councilを設立し、この委員会を諮問機関として看護教育カリキュラムの構築を指示した。一九四五年四月十一日第二回Nursing Education Councilにおいて、カリキュラムの検討が開始された。東京都内七箇所(慶応、慈恵、聖路加、日本赤十字などの看護婦養成所)の看護カリキュラムが提示されたが、その資料

は科目や時間数の記載が不完全な観があり、検討資料にはならなかったと思われる。一九四五年十二月、PHWの要請で米国から取り寄せられたと思われる Lenox Hill Hospital School of Nursing Curriculum (以下 Lenox) は、わが国独自の看護教育カリキュラムの成立過程において参考にされたものと考ええる。Lenox の教育課程は三年制で、一学年は三学期に分かれていた。三年間の講義時間数の合計は一四七三時間、実習時間の合計は五五一時間とある。一年次は生物・物理系、社会科学系の基礎科目と看護基礎科目及び看護技術を習得し、二年次、三年次は内科専門科目、外科専門科目などの疾患別看護の講義が構築されていた。また Lenox では、臨床経験に多くの時間を当てており、内科、小児科、産科、神経・精神科が各々十二週と規定されていた。臨床実習は選択ではなく学生全員が履修する内容であった。これらのカリキュラムを参考に審議を重ねた結果、わが国の看護教育カリキュラム案が具体化していった。

PHW のサマズ局長、オルト看護課長は、日本の看護を助産、臨床、公衆衛生分野を一本化する総合看護を目

指していた。これらの看護業務を別々の課程で捉えるのではなく、看護サービスのそれぞれの専門領域として考えると述べ、看護基礎教育を三年間の一貫した College of Nursing での教育制度にする提案していた。審議が開始されてから約二ヵ月後の五月三十一日、第五回 Nursing Education Council の Revision of the College Curriculum が報告された。教育期間は三年間(四十六週/年)で、三年間の講義時間数は二二〇八時間、さらに、病棟実習六一六時間、外来実習一四四時間の計七六〇時間との基準を決定した。産婦人科実習と、フィールドでの保健看護実習に最も多い十二週が当てられている。オルトラが提唱した総合看護のカリキュラムが具現化し、看護の専門性を求めた、戦後日本の看護教育カリキュラムが構築された。

(山梨医科大学)